

特別展 大原美術館所蔵 名画への旅 — 虎次郎の夢

Journey to masterpieces: Torajiro's Dream, from the collection of the Ohara Museum of Art

会期：2026 年 1 月 3 日（土）～ 3 月 29 日（日）



大原美術館は1930年に我が国初の西洋美術館として誕生し、まもなく創立100年を迎えます。長い歳月の間に、収蔵品は多岐に拡充され、いまや国内屈指の美術館として広く親しまれています。

しかしその始まりは100点に満たない西洋の絵画と彫刻でした。いずれも洋画家、児島虎次郎が単身でヨーロッパに渡り、現地で買い付けたもので、購入にあたっては、倉敷紡績株式会社二代目社長、大原孫三郎の資金的援助がありました。「日本の人々に本物を見せたい」——若き二人のこの思いが、やがて大原美術館の設立につながります。しかし児島虎次郎は、「夢」の実現を目にしないまま、1929年に世を去ります。

本展は、2025年春に児島虎次郎記念館が開館し、児島への関心がいっそう高まる中、創立100年を目前にした大原美術館の改修工事とともなう休館により、「これぞ名品！」というにふさわしい作品を館外で展示することが可能となった貴重な機会となります。児島虎次郎の足取りを辿りながら、さまざまな名画を巡ね歩く旅にも似たひとときを、どうぞごゆっくりお楽しみください。

はじめに

児島虎次郎（1881-1929）という名の岡山県出身の洋画家をご存じでしょうか。彼は洋画家としてよりもむしろ、大原孫三郎とともに、大原美術館の基礎を築いた人物としてよく知られているかもしれません。

1881年、岡山県川上郡下原村（現在の高梁市成羽町）に生まれた虎次郎は、少年の頃から画才を発揮し、画家になるべく上京して東京美術学校西洋画科選科に入学。倉敷市の篤志家、大原家の奨学金を得ながら、黒田清輝の指導の下、勉学に励みました（山本鼎の回想によれば「定時の時間にキッチリ教室に入り、[...]規則正しい、勤勉な生活ぶりだった」）。その結果、二度の飛び級で選科を二年間で卒業したのみならず、その後の研究科時代にも、岡山孤児院を主題にした油絵《なさけの庭》が宮内省買上げになるなど、将来を嘱望される洋画家として高く評価されました。そのような有望な人物だけに、孫三郎は、さらなる奨学金を虎次郎に約束し、本場での研鑽を継続するよう促しました。

1908年1月25日、虎次郎は、神戸港から船に乗り込み、憧れのフランスへと旅立ちます（1912年10月19日まで滞在）。

その後も、二度（1919-1921）、三度（1922-1923）と、虎次郎の渡欧は繰り返されますが、その過程で、虎次郎は優れた西洋美術を日本に持ち帰ることを夢見始め、孫三郎に資金提供を願い出ます。

孫三郎の理解に支えられた虎次郎の夢——。日本に西洋美術を持ち帰ることで、虎次郎と孫三郎が手と手を組んで実現しようとしたもの、それは何だったのでしょうか。

さあ、虎次郎の足跡を辿る旅に出発しましょう。



児島虎次郎 アトリエにて 高梁市成羽美術館提供

※解説文中の引用は、児島直平『児島虎次郎略伝』（昭和42年、児島虎次郎伝記編纂室）に依ります（以下同様）。また旧字体等は新字体に変え、現代的表記に改めています。

第1章 最初の渡欧

1908年3月11日、マルセイユ港に降り立った虎次郎は、4日ほど町を見て回った後、今度は鉄道でパリへ向かいます。しかし着いて早々、長旅の疲れからか、下痢と発熱に苦しみ、昏睡状態におちいりました。

病後は、療養と静かな生活を求め、パリ市近郊のグレ＝シュル＝ロワンに滞在します。「ホテルの裏に一寸したる清き河あり、船を浮べて水流を上る。古びたる橋のかかれるは面白し。この地に滞在するは二週間ほどの予定なれども、宿は至極物静かにして閑雅なり。（中略）できるだけ長く泊まりたし。（中略）こんな所で描けば絵は幾枚でも出来ると思う」。

恩師の黒田清輝が滞在し、佳作を描いた村だからか、あるいはその鄙びた風景が岡山の故郷を思わせたからか、グレ＝シュル＝ロワンを拠点に虎次郎は本格的に制作を開始しますが、結局は静けさよりも不便が勝り、一年後にはパリに戻ります。しかしパリに戻ったら戻ったで、絵を描くどころではありません。「毎日何人かの来訪ありて仕事出来ず、ただぶらぶら遊ぶくらいのもの。遊ぶにも金がかかる。面白くない。少し勉強したいと思うが浮腰では駄目である。早く旅行してうんとやろう。それより他によい考えはない」。かくて虎次郎は、ベルギー、ドイツ、オランダに旅をし、中でもベルギー西部のアントワープをひじょうに気に入り、王立美術学校に入学することになります。

王立美術学校では、校長ジャン・デルヴァンから数多くの有益な指導を得、ベルギー印象派のエミール・クラウスやパリ画壇における重鎮エドモン＝フランソワ・アマン＝ジャンを紹介されます。デルヴァンからは「君達は古い美術の歴史を有った国に生まれて、其内に育ったのだから、（中略）君達には君達の固有の特徴がある。然るに無暗に我々西洋人の真似ばかりをすると、其固有の特長を失ってしまうことがないとは限らぬ、大に用心すべきことである」と指導を受け、またクラウスからも同様に「従らに歐洲に遊び、歐洲の画風を模してはならぬ。固有なるものが発揮されぬ作物は真ではないと思う。固有とはその人本然の意である」という助言を得ました。虎次郎は彼らの諫言をいわば座右の銘として、しっかりと心の中に掲げていたように思われます。

この章では、虎次郎が最初の渡欧でデルヴァンを通じて知り合ったベルギーの画家たちの作品を中心に展示します。



児島虎次郎 《グレ村の風景》 1908 頃 高梁市成羽美術館所蔵



児島虎次郎 《和服を着たベルギーの少女》 1911年 大原美術館所蔵

第2章 帰国

ゲントの美術学校を首席で卒業し、1912年10月、約5年の第1回渡欧から帰国した虎次郎は、慈善事業家で岡山孤児院長・石井十次の長女・友と結婚し、孫三郎の好意で酒津の大原別邸に新居を構え、画室「無為村莊」を建設します。しかし、孫三郎いわく、「少しも進境がない」。

洋画家としての虎次郎にとって、フランスの自然主義と印象主義は、自らの表現の重要な下地となっていました。その下地の上に、例えばファン・ゴッホのように、筆を使わず、パレットの上で絵具を混ぜることもなく、チューブから直接絵具をキャンバスに塗り、外光を表現しようとしたのですが、いかにすれば西洋の模倣から抜け出すことができるのか。虎次郎はいま一度自らの根っこにある東洋精神の血統を見つめなおすべく、1918年3月末から3ヵ月間、中国と朝鮮へと出かけます。さらに日本画も試みますが、やはりこれはうまく行かず、結局は1918年末に、孫三郎の期待に応えられない制作上の苦境を打開するため、2度目の渡欧を決心します。このセクションでは、最初の渡欧から帰国した後、第2回渡欧（1919-1921）までの虎次郎の作品を展覧します。



児島虎次郎 《神戸港》 1916年 高梁市成羽美術館所蔵

第3章 「絵を買ってよし」—フランス

1919年5月6日、虎次郎は再び神戸港からいまだ第一次世界大戦（1914-1918）の余燼が残るヨーロッパに向けて出航しました。まずはロンドンで下船し、その後、鉄道でパリに向かいました。この渡欧では、サロン・ドートンヌ出品作《朝鮮の少女》がフランス国家の買上げとなり日本人初の正会員に推薦されるなど、苦境を脱した虎次郎の誰の目にも明らかな前進が認められますが、同等に大きな責務として、「日本の若い画徒のために」と、虎次郎が孫三郎に懇願した名画の購入がありました。ようやく、「絵ヲ買ッテヨシ。金送ル」と孫三郎からの電報を受け取ったのが、1920年8月。そして10月以降、1921年1月1日にマルセイユ港から日本へ帰る船に乗るまでの二ヶ月間に、虎次郎は、連日のようにモネ、マティスらを訪ね、作品購入をめぐる直接の交渉を繰り返しました。



アマン＝ジャン 《髪》 1912頃 大原美術館所蔵

1921年2月11日、神戸港に帰って来た虎次郎は、休む間もなく自ら選定し買い付けた作品を公開する準備に迫られます。そして早くも3月28日からは、倉敷市内の小学校において「泰西名画展」が開催されます。開催費用の計算など全く念頭がない虎次郎のこだわりが春休みの教室を見事な絵画展示室に変貌させたといえます。反響は予想をはるかに上回るもので、孫三郎に西洋美術を購入する意義を強く確信させ、さらに買い足すべく虎次郎に三度目の渡欧（1922-1923）を促すこととなりました。

このセクションでは、虎次郎が買い付けた作品をはじめ、大原美術館所蔵の印象派以前の画家たちの作品を中心に展示します。

第4章 エジプト

1922年5月8日、虎次郎の三度目のヨーロッパへの旅が始まりました。もちろん、いつものように神戸港から出航しましたが、今回は行きと帰りの途中で都合2度、念願のエジプト滞在を果たします。首都カイロや古都フスタートを訪れ、馬の背に乗り砂漠を散策し、夢に見たピラミッドの前にも立ち、また古代エジプトの小さな神像や陶器の破片なども手に入れました。

前回の2度目の欧州滞在（1919-1921）では、ルーヴル美術館で古代エジプトの壁画の一部を模写したことが日記に記録されています。虎次郎は何を考えたか模写をしていたのでしょうか。エジプトとは彼にとってどのような場所だったのでしょうか。

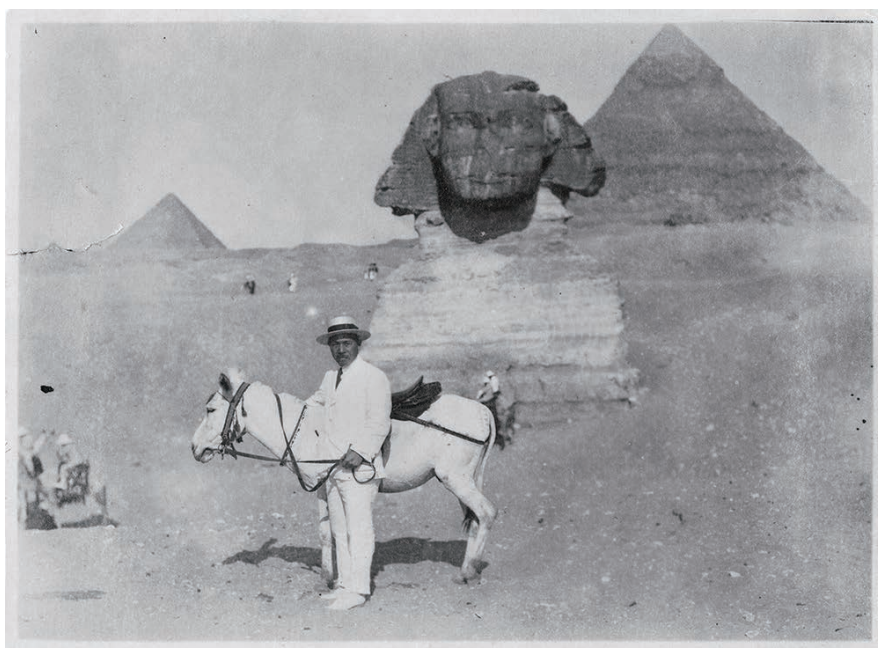
「度々企てあるこの旅のいよいよ可能となれる事は、すでに観ぬ間に何物かを得たらん心地す。ああ五千年の夢の跡、人

は生れ、人は逝きて末に流れ降りて栄し文華の跡、幾年年を夢と眠りしこの過去の崇高なる大芸術の力に今は吾れ接するの時に至り、感慨無量にして長嘆を催す」——大文明の永遠と、人生の無常。諸文明の源流を目の前にした「長嘆」の向こう側に、どこまでが西洋で、どこからが東洋なのか、そして人とは何かと問う虎次郎の思念が、渦のように経廻る様が想像されます。

このセクションでは、特別出品の高梁市成羽美術館所蔵「児島虎次郎 エジプトコレクション」のいくつかの遺物とともに、古代エジプトからインスピレーションを得た虎次郎の素描作品を展示します。



児島虎次郎《ルーヴル美術館所蔵「ウセルハト墓壁画」の模写》
1919年 個人蔵



《大スフィンクスの前に立つ虎次郎》ギザ、エジプト 1922年6月 個人蔵

第5章 スペイン、イタリア、スイス



エル・グレコ（ドメニコス・テオトコプーロス）《受胎告知》
1590頃 - 1603年 大原美術館所蔵

虎次郎が買い付けた作品の中でも、エル・グレコの《受胎告知》はまちがいない出色の一点でしょう。この作品が入手されたのは、「大々的大蒐集決行」のために渡欧した3度目の滞在（1922-1923）においてですが、すでに前回（2回目）の滞在中（1919-1921）に、12月15日から翌年にかけて44日間を費やし、虎次郎はスペインを旅しています。昼間はプラド美術館などで何度もエル・グレコの大作を目にし、夜はフラメンコやアルトゥール・ルービンシュタインのピアノ独奏——「傑出した演奏であった」——を聴いて五感を鋭くした虎次郎は、「グレコの各作品はすべて霊妙である」と日記に記し、虎次郎にとってエル・グレコは敬愛措く能わざる画家となっていたことが推察されます。そして1922年、《受胎告知》の購入にあたっては、再三見分し、アマン＝ジャンからは「買うべき優品」との助言を得ました。

3度目の渡欧は、1922年5月から1923年5月までの一年間でした。「今回もまた大原様の特別な加護を受けたことを感謝すればするほどに、今回の旅行は非常なる責任と義務を要すべきことにて、とても一通りの力にては勤まり申さずと存じ居り候」——孫三郎の信頼と期待に応えようと、虎次郎が名画購入のためにどれほど勉強し、審美眼を磨き、どれほど歩いたか。孫三郎から「買物打ち切レ」と電報が来るまで、虎次郎は精力的にフランス、ベルギー、スウェーデン、ドイツ、スイスなどを訪れ、名画の蒐集に奔走しました。

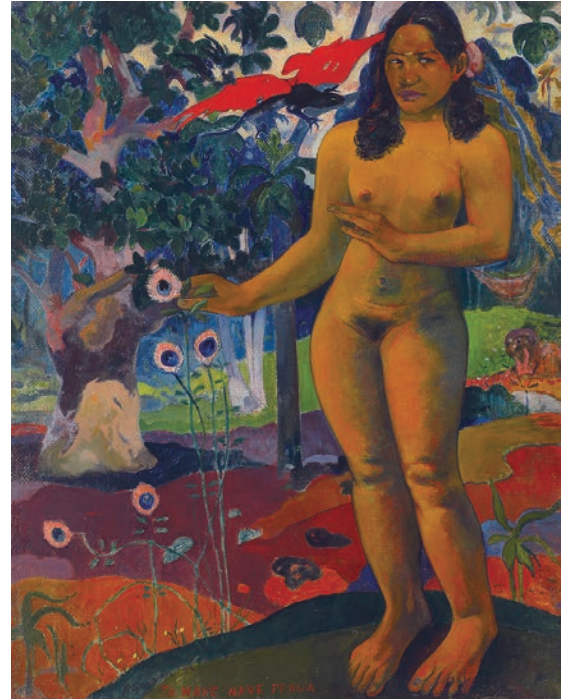
ここでは、虎次郎が買い付けた作品に加え、戦後に大原美術館の所蔵となったスペイン、イタリア、スイスの画家の作品も併せて展示します。特にスペイン人として生まれたピカソは、エル・グレコの近代性を再評価する気運の中、エル・グレコのひそみに倣った作品を数多く手がけました。

第6章 フランス、ふたたび

1923年5月1日、3度目の渡欧から帰国した虎次郎は、すぐさま倉紡中央病院（現・倉敷中央病院）の開院準備に携わっています。6月2日に開業開始を控えていたこの病院は、病院独特の冷やかさを減じるべく様々な工夫が凝らされましたが、帰国後でもない虎次郎がその任に当たりました。病室をはじめ、院内の随所にパリで買い求めた名画の複製画を掲げ、ガラス天井の温室のような待合空間の中央には、虎次郎がデザインした欧風の噴水も造られました。

さらに同年8月には新たな収集を披露するための「第3回泰西名画家作品展覧会」（倉敷小学校旭町校舎）と「埃及・波斯及び土耳其〔エジプト・ペルシャ及びトルコ〕古陶器展覧会」（倉敷小学校新川校舎）の開催準備がありました。

その後、1928年にも、同様の展覧会が京都と東京で「泰西美術展覧会」として開催されました。このときは、鑑賞者の理解に資するものとして画家の略伝がまとめられた図録が制作されました。展覧会終了後、フランス絵画を精力的に紹介した功績により、虎次郎に対しフランス政府から勲章が授与されました。



ポール・ゴーガン 《かぐわしき大地》1892年
大原美術館所蔵



クロード・モネ 《睡蓮》1906年頃 大原美術館所蔵

最後に、1928年11月、虎次郎は、明治神宮絵画館壁画《対露宣戦御前会議》の制作にあたり極度に疲弊し、京都帝国大学医学部附属病院に入院します。翌年1月、どんよりと底冷えする京都より、晴れの多い暖かな岡山のほうが療養にはよいと考え、岡山医科大学附属病院に転院しましたが、その甲斐なく、1929年3月、虎次郎は永眠しました。47歳でした。

翌1930年、虎次郎の業績を記念し、孫三郎は、世界恐慌の真っ只中にもかかわらず、自邸の庭に大原美術館の建設を決断します。孫三郎にとって、美術館の建設は、大原社会問題研究所（1919）、倉敷労働科学研究所（1921）、倉紡中央病院（1923）などと同様、社会的幸福を実現するための重要な施設だったと考えられます。だからこそ、孫三郎は、石井十次の岡山孤児院に運営資金を

拠出したのと同様、虎次郎には名画の購入資金を惜しみなく与えたのでしょう。

まもなく創立100周年を迎える大原美術館——。虎次郎が現地に赴き買い付けてきた名画群は、日本でいつでも見ることのできる本物中の本物として、芸術に触れる喜びを実感させてくれます。

いったい、美術館とは何なのか、何のためにあるのか。大原美術館の創設に結実した虎次郎と孫三郎の思いは、いま一度、私たちに美術館の原点に立ち返ること促しているように思われてなりません。

最後の括りとなるこのセクションでは、大原美術館の精華というべき印象派の画家たちの作品を中心に展示します。

開催概要

- 【展覧会名】 特別展「大原美術館所蔵 名画への旅 — 虎次郎の夢」
- 【会 期】 2026 年 1 月 3 日（土）～ 3 月 29 日（日）
- 【会 場】 中之島香雪美術館（大阪市北区中之島3-2-4中之島フェスティバルタワー・ウエスト4 階）
- 【休 館 日】 月曜日（祝・休日の場合は開館し翌火曜日休館）
- 【開館時間】 10時～17時（入館は16時30分まで）
- 【主 催】 公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社
- 【協 力】 公益財団法人大原芸術財団、高梁市成羽美術館
- 【お問い合わせ】 TEL06-6210-3766 FAX06-6210-4190（中之島香雪美術館）
https://www.kosetsu-museum.or.jp/nakanoshima/
- 【入 館 料】 一般1,600（1,400）円、高大生 800（600）円、小中生 400（200）円
（ ）内は前売り・20 名以上の団体料金
前売り券は～ 1/2 まで、中之島香雪美術館、フェスティバルホール・チケットセンター、主要プレイガイド、コンビニエンスストア、公式 HP（オンラインチケット）で販売します。

公式 HP

SNS



記念講演会 ①

演 題：再見！ 大原美術館コレクション
講 師：三浦篤 氏（大原美術館館長）
日 時：2026年 2月15日（日）14時～15時30分

記念講演会 ②

演 題：児島虎次郎の旅と夢
講 師：児島塊太郎 氏（高梁市成羽美術館理事長）
日 時：2026年 2月22日（日）14時～15時30分

会 場：中之島会館（当館隣）
参加料：500円（展覧会観覧には別途入館料が必要）
定 員：280名（事前申し込み制・先着順）
受付開始：10月11日（土）

応募はこちらから ▶▶▶



こども限定 おしゃべりみゅーじあむ

- ★作品をじっくり見て、感じたことをみんなで話してみよう！
- ★話すことで、気づかなかったことや新しい発見がいっぱい！
- ★こどもだけの特別な時間を楽しもう！

日 時：2026 年 1 月 5 日（月） ※休館日のためイベントにご参加の方のみご入館いただけます
午前の部 10 時～11 時 30 分、午後の部 13 時～14 時 30 分

会 場：中之島香雪美術館

対象年齢：5 歳～18 歳（高校生まで） 午前の部 5 歳～小学 6 年生 午後の部 小学 4 年生～18 歳
※小学生以下のお子様は保護者の方とご参加ください。

参加料：こどもは無料！ ※保護者は有料です。

定 員：午前の部 15 名、午後の部 15 名 ★先着順、事前申し込み制

応募はこちらから ▶▶▶



こども無料DAY

この日程に限り小学生～高校生まで入館無料！

（保護者は有料です）※学生証をご提示ください

この日はおはなしも、笑うのも、泣くのも OK !!

開催日：2026 年 3 月 14 日（土）～ 3 月 29 日（日）

夜間特別開館

開催日：毎週金曜日

時 間：10 時～19 時 30 分（入館は 19 時まで）

広報画像使用申込書

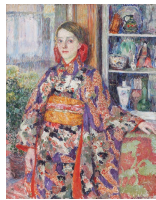
画像使用の注意事項

ご希望の方は申込みフォーム(下記二次元コード)または本紙をメールかFAXにてお申込みください。

- ◆企画書など概要がわかる書類の提出をお願いします。
 - ◆原稿および記事については、確認のため、掲載前に広報担当宛てにお送りください。
 - ◆掲載・放送後は、掲載誌等の送付をお願いします。
 - ◆画像の名称(作品名)、指定、展示期間、所蔵元、クレジット(ある場合)を記載してください。
 - ◆サイズは、(web掲載用)長辺1000px 100dpi(紙媒体用)長辺1000px 300dpiまで。
 - ◆トリミング、文字のせはしないでください。
 - ◆web掲載の場合、掲載期間を最長6ヵ月とし、その後は削除をお願いします。
- それ以上の期間掲載をご希望の方は、再度ご連絡ください。



申込みフォーム



①



②



③



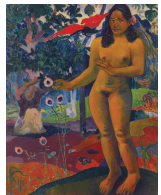
④



⑤



⑥



⑦

※ご希望の作品番号に○をしてください

①	児島虎次郎《和服を着たベルギーの少女》1911年 大原美術館所蔵
②	児島虎次郎《グレ村の風景》1908頃 高梁市成羽美術館所蔵
③	児島虎次郎《スペインの丘》1920年 大原美術館所蔵
④	エル・グレコ(ドメニコス・テオトコプーロス)《受胎告知》1590頃-1603年 大原美術館所蔵
⑤	アメデオ・モディリアーニ《ジャンヌ・エビュテルヌの肖像》1919年 大原美術館所蔵
⑥	クロード・モネ《睡蓮》1906年頃 大原美術館所蔵
⑦	ポール・ゴーギャン《かぐわしき大地》1892年 大原美術館所蔵

取材者	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
	E-mail	取材人数 名
媒体	種別 ☐ テレビ ☐ ラジオ ☐ 新聞 ☐ 雑誌 ☐ その他()	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
備考		